南山大学国際センター主催/ヨーロッパ研究センター共催講演会

名画の楽しみ方がわかる！かわる？！

ルネサンス～19世紀末の絵画からみる女性の魅力

聖母 VS. 悪女（サロメ）

男性を滅ぼす妖艶な女性＝「ファム・ファタル」。
19世紀末から20世紀初頭にかけてヨーロッパにおいて頻繁に描かれました。
講演会では、新約聖書に登場する「サロメ」をはじめ、異なる時代や画家によるいくつかのファム・ファタル像を取り上げます。
中世からルネサンスの時代に描かれた絵画をはじめ、ギュスターヴ・モロー（フランス）、フランツ・フォン・シュトゥック（ドイツ）、ムンク（ノルウェー）、ビアズリー（イギリス）など、同じ主題がどのように変化して扱われているのか、また魔性の女（悪女）は具体的にどのように描かれているのか、などに触れながら、西洋の名画の楽しみ方を紹介します。

2019年12月6日 金 17:00～18:30

南山大学多文化交流ラウンジStella（R棟2階）

講演者

前田　朋美氏

中部大学、椙山女学園大学非常勤講師

申込不要
参加費無料

お問い合わせ先

南山大学国際センター事務室
〒466-8673　名古屋市昭和区山里町18
Phone: 052-832-3123
E-mail:intl-office@nanzan-u.ac.jp
http://office.nanzan-u.ac.jp/ncia/

講演会のwebサイトにアクセスできます